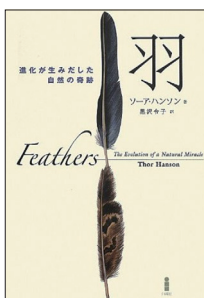


■若手に是非読んでもらいたい本

澤本光男のおすすめ
京都大学大学院工学研究科 教授

訳本



原著

分野：自然科学（一般書）
書籍名：羽 - 進化が生み出した自然の奇跡
著者名：ソーア ハンソン(著) 黒沢令子(訳)
(ISBN-10: 4826901690;
ISBN-13: 978-4826901697)
出版社：白揚社
出版年：2013年
価格：2,730円

本書は羽に関する一般書で、筆者は米国の保全生物学者。羽を「自然の奇跡」と畏敬し、機知と比喩に富む平易な文章から熱い思いが昇り立つ。「読み手に熱意が乗り移る語り口」(*Nature*)に筆者も敢えなく「感染」し、時を忘れた。

進化、綿羽、飛翔、装飾、機能の部からなり、進化では、鳥は恐竜の子孫か、なぜ羽をもつか、いかに飛ぶのか、など定番の論争が活写される。一部書評には、ここは圧巻で後半は冗長とあるが、読者は、むしろ綿羽(ダウン)と機能に興味をそそられよう：羽は鳥に最適の物性をもつシステン架橋ケラチンタンパク；綿羽は先端繊維を凌ぐ断熱材、表面ナノ突起で超撥水性；尾羽の誘引色は多く構造色…

こう「説得」を重ねても、本書が読者の明日や1年後の研究に「役に立たない」ことは明白である。とはいえ読後には、ほろ苦い自責を経て暖かな激励が心に沁み、10年後への希望が垣間見える。筆者は羽を起

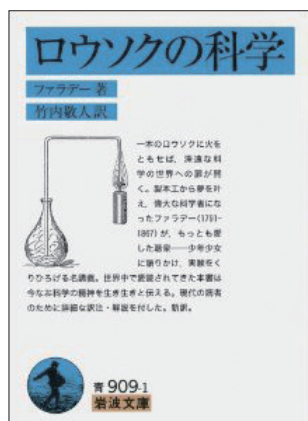
点に、進化から機能さらに人類や社会との関係へと、驚くほど広く探求を伸ばし、新事実を見いだす。翻って、一端の専門家と目される年になって、筆者ほど真摯に高分子に向き合ってきたのか、と頭を垂れる。しかし、気を取り直し読み進むと、「科学はおもしろいね」と筆者が微笑みかけてくれる。

そんな本書の真髄は、巻末数行に凝縮される。ある博物館の出口には、今まさに飛び立つ海鳥の大きな写真があり、見学者は通路を曲がって突然にこれに会い、誰もが同じ反応を示すという：一瞬息を呑み、身を乗り出し眼を凝らす…「驚きが探求を、探求が感動を生み、陶酔が始まる」些細なことでもいい、若い読者がこの陶酔への連鎖を早く体験し、眦を上げ勇気をもって飛翔してほしいと祈らざるを得ない^(S)。

*^(S)は、e! 高分子の Supporting Information にハイパーリンクされています。



■若手に是非読んでもらいたい本

大下浄治のおすすめ
広島大学大学院工学研究院 教授

分野：一般化学
書籍名：ロウソクの科学
著者名：Michael Faraday(著)
竹内敏人(訳)
出版社：岩波文庫
出版年：2010年
価格：600円

10年ほど前から、近くの児童館などで小学生相手に化学実験教室を開いていますが、ドイツ人の友達とその話になった時に薦められた本です。実は、「え、知らないのか?」と驚かれたのですが、そんなに有名な本ならと手にとりました。Michael Faradayが1859-60年に「ロウソク」を題材に6回に分けて行ったクリスマス講演をまとめたもので、一般市民、とくに子供たちを対象にしています。しかし、ビクトリア女王の旦那さんが来てたりしたそうなので、予算獲得の下心もあったのかな…なんて思うのは、私だけでしょうか。開国したばかりの日本から来た和ロウソクが紹介されたり、19世紀の薄暗かったであろう講義室で好奇心にあふれた人に囲まれている様子が生き生きと描かれています。そんな中で、Faradayは、ロウが芯を伝って気化し燃焼していくことから、燃焼によって水・二酸化炭素ができること、さらに、それらが

水素、炭素、酸素からできていることなどを、さまざまな実験を通してわかりやすく解説していきます。当時Davyによって発見されたばかりのカリウムを加熱して二酸化炭素と反応させようとして爆発させてしまったり、化学を知ってる人ならどきどきわくわくの連続です。研究で疲れた頭を休めつつ、自分がFaradayや観衆になったつもりで古の賢人のパフォーマンスに思いをはせるのは、いかがですか。「…大失敗は、失敗しなければ学べなかったようなことを私たちに教えてくれます。こうした経験を通して、私たちは自然科学者になっていくのです(訳文)」今も昔も実験屋の本質は変わりませんね。

